

令和 7 年度 第 1 回公民館運営審議会 議事概要

日 時：令和 7 年（2025 年）7 月 14 日（月） 19 時 00 分～20 時 35 分

会 場：豊中市立中央公民館 1 階 集会場

出席者：秋山 京子、大里 ルミ子、大濱 浩子、奥村 旅人、十河 秀敏、津田 克裕、
野村 恭代、松山 鮎子、松山 繁樹、渡邊 浩

欠席者：なし

事務局：本田 光直（中央公民館長）、松本 貴幸（中央公民館主幹）、山岸 明子（螢池公民館長）、橋本 慶（庄内公民館長）、江川 勉（千里公民館長）、前田 真吾（中央公民館副館長）、守屋 浩一（中央公民館）

傍聴者：1 名

案件：

- （１）. 令和 7 年度の審議会の進め方について
- （２）. 令和 6 年度公民館・公民分館事業の実施報告について
- （３）. その他

資料：

次第

公民館運営審議会配布資料について

資料 1 公民館運営審議会委員名簿

資料 2 令和 7 年度 公民館運営審議会の進め方（案）

資料 3 令和 7 年度 教育行政方針

資料 4 前回いただいたご意見への対応について

資料 4－1 講師謝礼金基準

資料 5 令和 6 年度 公民館講座集計表

資料 6 令和 6 年度 公民分館講座等実施状況

資料 7 公民館条例・公民館条例施行規則（抜粋）

1. 開会

2. 案件

（１）. 令和 7 年度の審議会の進め方について

<事務局より資料 2 の説明>

質疑応答なし

案件 2 に関しては、今年度、事務局からの提案に沿って審議会を進めていくこととする。

(2). 令和 6 年度公民館・公民分館事業の実施報告について

<事務局より資料 4、資料 4－1 の説明>

●無償ボランティアについてだが、無償であることに苦情がないから無償で、払っているところは苦情があるからなのか。その辺の判断基準を知りたい。それから、前に私が意見して、分館謝礼金の上限の 8,000 円が 10,000 円になったが、私が言いたかったのはそういうことではなく、公民分館と公民館が同じような講座をしても謝礼金に差があるのはおかしいのではないか。公民分館の謝礼金だけを上げるのではなく、公民館の謝礼金の上限を決めていただくほうが良いのではないのか、という事である。

■語学力習得というスキルを伴うというよりは、交流を主としているところもある。謝礼をもらってするよりもむしろボランティアの方がいいという意見もあるので、基本無償としており、指導者については有償としている。それから謝礼金だが、公民館でも作業的な講座は謝礼金が上限 8,000 円だが、大学教授、教師、専門家など基本的に高い謝礼金基準としているので、分館の謝礼金金額を 8,000 円から 10,000 円に上げたものである。

●公民分館はどんなに偉い先生を呼んでも上限 10,000 円だが、公民館は裁量で上限があがる。その辺りの差を考えてもらいたい。税金なので、納得がいく説明ではなかった。

●「講師謝礼金 標準額」の一覧表の下 2 行「分館講座」の部分がなくして公民分館と公民館を共通の適用にすればよいのではないのか。

■以前は分館講座が 8,000 円だったので今回はそこを引き上げたということなのだが、仰っている趣旨とは思っていなかったので、そのあたり謝礼金の基準については今後検討していきたい。

◇おそらく謝礼金を設定した根拠があると思うので、理解できるような説明をしてもらいたい。特に意味なく決めていたのであれば、可能であれば見直していったらよいと思う。分館と公民館の謝礼金を同じにするのが可能であれば考えていただきたい。また、ボランティアの有償・無償の判断基準も整理していただきたい。

<事務局より資料5の説明>

●蜚池公民館の6ページのNPO法人ママの働き方応援隊の講座だが、謝礼金を払っている講座と無償の講座があるがどういう基準か。東部地域連携係での講座もそうだったようだが。また、30ページの東部地域連携係の暮らしのリユースバザーだが、たくさん人が来ていそうだが定員6人、参加者4人と少ないがどういう事業だったのか？

■子育て部の事業はこちらから依頼したので支払ったが、健康測定会は看護学校など色々な方の協力があり、こちらからの依頼ではないのでどこにも謝礼金を支払っていない。

■東部のゲームについても、蜚池公民館と同様の理由で払っていない。それからくらしのリユースバザーだが、バザーをする人の定員、店舗数であり、コラボまつりに合わせて開催したので、そちらの観客の人数は把握していない。

■謝礼金は市の別の部局から出ているかも知れないので、調べてみる。

●もしゼロなら、「講師」という役割でない可能性もあるので、書き方を工夫していただきたい。

●事業評価表が見にくい。1回あたりの謝礼金、金額があがっているが、横を見ると日にちが何日もあがっていたりする。これが1日分なのか、全部なのかわからないので、単位を表の中に書いてほしい。上の「1回あたり」をやめて下に「1回分」とかわかるように書いてほしい。あと、金額だが、講師謝礼金標準額に基づき金額の前に、教授の「教」、専門家の「専」や研究の「研」とかつけてわかるようにしてほしい。あと、先ほどの日本語は、これはもはや教室ではなく、お金を払ってないからサークルという感じだと、また登録グループには謝礼金を支払わないのは決まっているようだし、公民館から頼んだら支払うが、向こうから言ってきたら地域貢献ということで支払わない、なんとなくそんなルールがあるようなので、それも記号で分かるようにしたらどうか。逆にほとんど使っていない一時保育などは、何分の何とか、表をまとめるとかしたらどうか。また事業PR、参加者満足度など、一応基準があって出しているとは思いますが、基準が覚えられないので、別添で早見表をつけてもらえないか。あと、教育行政方針の中に、社会教育主事が出てきているが、どの公民館にもいるのか。

■表の形式は検討させていただく。社会教育主事については免許が必要で、任命されている者が教育委員会に4人いる。公民館と図書館、社会教育課など。昔は公民館にもたくさんいたが、免許を持っている人もほとんど今はいないが、教育委員会としても、少しずつ増やし

ていく方針で将来的には8人くらいに増やす方向である。

●教育行政方針の3ページに「社会教育主事を中心に連続性のある講座を行い、地域の人の継続的な居場所づくりと地域課題解決のための人材育成をめざします。」と書いてあるが、そういった活用については何か考えているのか。また、社会教育主事の取得が非常に難しいため、それを補完する位置づけの「社会教育士」という制度が出来ていたと思うが、豊中市としては活用していかないのか。

■蛍池公民館で説明のあった料理クエストで「社会教育主事」が公民館・図書館・社会教育課と連携して活用している。社会教育主事は社会教育士が任命されて社会教育主事となる。

■蛍池公民館の講座の中で社会教育主事が中心となって連携して事業を進めている。次の担い手づくりなどに活用している。社会教育士をどう活用するかは、市長政策的な部分で社会教育の必要性もあるため、豊中市全体として社会教育士の活用を考えていく。

●資料の作り方だが、説明や質問の時にページが行ったり来たりするので、同じ公民館と連携係ごとにまとめて分けてもらいたい。

●1回あたりの定員や回数、延べ人数などは単位を揃えたほうが良い。先ほどの東部のバザー事業で、団体数が単位となっていた。それから、延べ人数のカウントはどれだけの意味があるのか。どれほどそれを生かせるのか。また参加率をだしているのは見やすくわかりやすいが、参加率が高ければ良いというものではないのだが、限りなくゼロに近いまたはゼロなものは何か対策しているのか。それから、各セルの中を両端揃えにした方がスペースを節約できる。

■同じフォームの中で表を作っているので、カテゴリーの考え方が違うところについて記入方法に工夫をしていきたい。参加率については、1回あたりの定員をもとに出しているが、定員の設定が会場のキャパシティや講師が扱える人数にもよるので、ひとつの目安である。多数来てほしいという気持ちはある。延べ人数については、公民館講座はカテゴリー毎にやっていて、他のカテゴリーでもカウントできる講座もあるが、それぞれのカテゴリーごとの延べ参加者数を採ることで、どれくらいの労力の中で効果があるかという目安になるという活用の仕方をしている。

●6ページの蛍池公民館の料理クエスト、すごく良い。3部署の社会教育主事が連携している、もっと増やしてほしい。子ども支援課でも、子ども食堂や居場所づくりなど、お手伝いしてくれる人もたくさん来ていただいているが、ボランティア集めで苦勞している団体も見

受けられる。そういう中で高校生を集めて意識を高めてボランティアに登録してくれて、どこかの居場所で活動してくれたらいい。市としてシステムのボランティアを集めるようにしてはいないのか。また、高校生はどうやって集めたのか。

■近隣の刀根山高校の学校運営協議会委員になっており、そのつながりで、校長を通じて料理クラブに声をかけてもらって集まったもので、システマティックに集めるようなシステムにはなっていない。子育て部のほうが地域での繋がりが強くなり、参加者の内 2 人が NPO 法人ママの働き方応援隊に入って活動している。そういった経験が人材育成につながっている。

●体験講習会を実施するのだが、PR に関して、蛍池公民館は LINE を活用しているが中央公民館はやっていないので、各公民館でも使ってほしい。市の広報枠も少なくて厳しいが、活用してもらいたい。効果測定だが、定員を 10 人にして 1 人しか来ないと 0.1 になるが、5 人で良いとすると倍の 0.2 になる。数字については会場の定員で決めたりしているが、1 回あたりの定員と参加者数は本当にそれが正しいことを伝えているのか。参加率の判断は分かりづらい部分もある。

■LINE については検討する。

●体験講習会について、参加率や参加者数が少ない場合が多いが主催する側としてはがっかりしてしまうのではと危惧する。体験講習会という形が今のスタイルに合っていないのではないか。それを課題とみるのか、こんなものなのか。もっと別の方法があるのか。

●体験講習会のメリットは、公民館の事業と位置付けられることで会場使用料が無料になること。また参加者がサークルに加入してくれることも大きなメリットである。年 1 回と言わず 2 回、3 回にしてほしい。周知も色々やっていただいて、グループ員が増えれば活動がより活性化していき、引いては豊中市の社会教育活動が活発になると考えている。

■体験講習会が今のスタイルに合っていない所はあるかもしれない。体験より、まずは知ってもらうことが必要ではないか。公民館での活動は主に練習しているのだが、発表の場をもっと見てもらって知ってもらうのが良いので、そのような機会をもっと作っていききたい。発表の場としての公民館まつりをもっと活用していきたい。

<事務局より資料 6 の説明>

●公民分館も社会教育主事と関りがあるのか。あるいは公民分館にも社会教育主事が居たり

するのか。

■今はないが、かつては公民分館長が2人ほど社会教育主事講習を受講されたと聞いている。受講に時間がかかるため、なかなか厳しいが。

●大学で社会教育主事養成講座を担当しているが、学生20,000人に対し1人しか受講者がいない。社会教育士も全く同じ要件で受講できるのだが、社会教育主事も社会教育士も社会的ニーズがほぼない状況のなか、豊中市が4人から8人に増やす考えであることには今後注視していきたい。社会教育主事講座の科目の半分以上を担当しているが、これを受けたから教育の専門性が上がることはない。そもそも社会教育の専門性があるとは思っていないくて、長く務めるからこそ連携が取れると思うので、長く社会教育に関われるポジションに居れるのかという事が重要である。

●すすくで子育て中の親に聞いたが、講座に行きたいという気持ちは強い。公民館で色々な講座をやっていることを教えてあげたら興味を持ってくれた。分館講座一覧を見せても良いか。土日休みの人が多いので、土日にやってもらえたらありがたい。今の若い人は広報も見ない。

■分館講座は39の公民分館がそれぞれの校区でやっているが、どの地区からでも参加できる。広報には載るように努力している。

◇庄内公民館は、10代・20代にターゲットを絞った講座をしていて、PR5、満足度5で、広報の仕方も考えている。

■誰をターゲットにしているかによって周知の方法も変えている。とよファミ、LINEも活用している。チラシも若者向け、土日や来やすい時間帯も考えている。しかし狙った所に来ないこともあるので、講座の企画会議をして検討していつている。

◇どの層に来てもらいたいかによって、ターゲットを絞って検討して、その後も分析しているという事で、そういった積み重ねをされているという事なので、今後も引き続き情報提供をお願いする。

(3) その他

<事務局より、次回の審議会は12月に開催予定であること、それぞれの公民館まつりの開催日の報告。視察は11月で検討、今年度は螢池(11/8or11/9)を予定。>

以上